

年頭所感

市民とともに新たなステージへ



成田市長

小林 攻

新年明けましておめでとございます。

平成16年の年頭にあたり市民の皆様には、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年4月の市長就任から8カ月、私は政治信条としております現場政治を基本とし、市民の皆様の声を直に聞き、そして市政に反映することに努めてまいりました。

特に、昨年10月から各地区で実施したタウン・ミーティングは、延べ14回に及び約700人の参加を頂き、市民の皆様の貴重なご意見を頂戴いたしました。今後とも市民にとって身近な市政、「市民に分かりやすい市政」、「市民が納得する市政」を推進してまいりたいと考えております。

さて、本年は、本市にとって市制施行50周年という大きな節目の年となり

ます。この記念すべき年を迎え、新たな決意をもって市政の諸課題に取り組み、議員ならびに市民の皆様とともに21世紀にふさわしい新生成田を創造してゆくため邁進する所存でございます。

時代は中央集権型社会から地方分権型社会へと移り変わるつとしており、

全国の市町村は今大きな岐路に立たされております。現在国においては、国から地方への税源移譲、国庫補助負担金の削減、地方交付税の見直しを一体的に行う三位一体改革が議論されております。



延べ700人が参加したタウン・ミーティング

市民の負託に適確に応えることのできる真の分権型社会を実現するために、地方自治体の財政基盤の強化、自立性の強化を図らなければなりません。このよつな中で、本市には市の将来に係る二つの大きな課題があります。一つは成田空港問題であります。

成田空港を取り巻く状況は、本年4月には空港公団が民営化されるなど大きく変化しようとしております。一昨年は暫定平行滑走路が供用を開始し、空港機能の充実が図られました。成田空港が将来にわたって、名実ともに世界に誇れる国際拠点空港としてその役割を果たしていくためには、空港機能の充実が図られることはもとより、用地問題の早期解決、騒音対策の更な

る充実が何より重要であり、空港と地域が共生し、共に栄えることのできる環境をつくるのが成田市の更なる発展につながるものであります。私は地元市長として全力を挙げて空港問題の解決に向けて積極的に取り組んでまいります。

二つ目は、市町村合併問題であります。

現在の成田市の姿は、50年前の昭和の大合併により形づくられました。そして21世紀という新たな時代を迎え、どのような姿に構築することが望ましいか今問われております。昨年の9月定例市議会の冒頭、市町村合併に関する基本的な考え方について、市長として一つの提言をさせていただきました。

合併問題は、地方自治の根幹にかかわる重要事項であり、行政主導で進めたり期限を切って実現を急ぐべきではなく、市民が理解できる情報を提供し、かつ開示して、市民の意向を踏まえながらさまざまな角度から検討し、慎重に取り組むことが肝要であると考えております。昨年の11月には市民の意向を集約する意味から1万人の市民の皆様アンケートをお願いいたしました。今後とも、市民の皆様意向を把握することに努め、成田市がとるべき最善の道を選択してまいりたいと考えております。

ただいま申し上げましたことのほかにも、教育文化の振興、観光・産業の振興、ゴミ処理施設の早期建設、医療・福祉の充実など私に課せられた責務は重大であります。

成田市民が元気で生き生きとした生活が実感できる、市民が主役の市政の実現を目指し、常に市民の目線に立った市政を心掛け、強い信念と決断力をもって成田の新たなステージに臨んでまいりたいと存じます。

本年も市民の皆様により一層の「理解」と協力を賜りますようお願い申し上げます。



空港公園の民営化により更なる飛躍が期待される成田空港